

事務事業名	市有施設からの放流水等に関する協定事業				担当	上下水道部 下水道課 業務係	
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			増補版施策名		
施策名	2	下水道事業の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和58年度～）	
予算科目	9.公共下水道事業特別会計	1.公共下水道	1.総務管理費	1.一般管理費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
事業概要	生活環境の整備及び公共用水域の水質保全を目的として、水処理センターはじめ、既に設置済みの各施設並びに今後行う新たな施設の設置、増改築に伴う工事排水及び当該施設からの排水の放流に関する栃木県鬼怒川漁業協同組合・鬼怒川南部漁業協同組合との協定に基づき、現物補助として、漁協より購入した稚魚を市内の河川へ放流を行っている。 （排水及び雨水を放流している市の施設） ・真岡市水処理センター、自然教育センター、大内西小、大内中、大内中央小、旧中村東小、西真岡調整池、高勢町北調整池、高勢町南調整池、商工タウン調整池、大和田1号調整池、八木岡伊勢崎調整池						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）		⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
31年度実績 ・鬼怒川漁協と場所、時期について打合せ ・魚の購入、放流、報告書提出 ・秋にウグイを放流（秋は河川近くの小学校児童の協力を得て実施） ・鬼怒川南部漁協の廃業により、年2回から1回（秋）に変更		名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
2年度計画 ・鬼怒川漁協と場所、時期について打合せ ・魚の購入、放流、報告書提出 ・秋にウグイを放流（河川近くの小学校児童の協力を得て実施）		ア	魚の放流量	kg	505	505	505	310	310
		イ							
		ウ							
		エ							
		オ							
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 鬼怒川漁協所管の事業区域内に排水しようとする市の施設		⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
		名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
		ア	排水している市の施設の数	箇所	12	12	12	12	12
		イ							
		ウ							
		エ							
		オ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 水処理センターなどの市の施設からの排水及び今後行う新たな施設の設置、増改築に伴う工事排水を放流できるようにする。		⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
		名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
		ア	真岡市水処理センターからの放流量	m3	5,410,135	5,356,276	5,322,159	5,631,169	5,414,222
		イ							
		ウ							
		エ							
		オ							
④ 結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 市の施設の設置及びスムーズな運営		⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
		名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
		ア	河川の水質が良いと感じている市民の割合	%	68.3	67.2	68.1	70.3	70.3
		イ							
		ウ							
		エ							
		オ							
(2) 総事業費の推移		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	1,000	1,000	1,000	500	500		
	事業費計(A)	千円	1,000	1,000	1,000	500	500		
	人件費	正規職員従事人数	人	6	6	6	6	6	
		延べ業務時間	時間	60	60	60	30	30	
		人件費計(B)	千円	249	249	250	121	121	
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,249	1,249	1,250	621	621		

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	真岡市水処理センターを整備するにあたり、水質汚濁防止法に基づく特定施設であることから、処理水放流先である五行川の鬼怒川漁業協同組合・鬼怒川南部漁業協同組合と昭和56年3月に協定を結んだ。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	平成24年度から八木岡伊勢崎調整池の1施設が増加した。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	秋の魚（ウグイ）の放流は毎年、地元の小学校児童にとって楽しみな恒例行事となっている。